

近畿中央呼吸器センターに受診されている患者さんへ

臨床研究の実施に関するお知らせ

現在近畿中央呼吸器センターでは、下記の臨床研究を実施しております。

この研究では、患者さんの日常診療で得られたデータ（情報）を利用させていただきます。

研究の計画や内容などについて詳しくお知りになりたい方、ご自身のデータがこの研究で利用されることについて異議のある方、その他ご質問がある方は、以下の「問い合わせ先」へご連絡ください。

●研究課題名

迅速ホルマリン固定法を用いた肺癌手術検体は気管支鏡下生検検体と比べて核酸品質が良好か：単施設後ろ向き観察研究

肺がんコンパクトパネル®D×マルチコンパニオン診断システムの実態調査

●研究の目的と意義

わが国における肺癌患者の部位別癌死亡数は第1位であり、その治療の向上が求められています。近年は手術だけでなく、手術後や再発時の治療効果も重要な位置付けとなっています。それらの治療選択をする上で肺癌組織から得られる遺伝子変異の情報は極めて重要であり、特定の遺伝子変異を有する方は、有さない方とくらべて飛躍的に肺癌の治療成績が向上しています。

肺がんの組織を採取する検査は手術や気管支鏡検査など様々ありますが、それらの手法により検体の質は多少異なることがあります。これらの違いにより遺伝子変異を検出率に違いがあるか、どのような検体処理を行うことが高い核酸濃度を維持し、さらには遺伝子変異検出率を向上につながるのかを研究することを目的としています。検体採取方法の違いだけでなく、測定機器も複数販売されており、この研究ではコンパクトパネル検査を用いた検体で得られる遺伝子変異の頻度、種類を検索します。これらの研究により従来行われている方法と比べて遺伝子変異の検出率向上につながる可能性があり、ひいては肺癌の治療成績向上につながるため、肺癌治療を受けられる患者さんにとって有益な情報になると考えています。

●対象となる患者様

2023年6月から2024年8月までの期間、当院で検体をコンパクトパネル検査に提出し肺癌の診断を受けられた患者さん。

●使用させていただく診療データ

性別、年齢、喫煙、血液検査結果、病期、手術所見、CTやPETなどの画像検査所見、病理検査所見、コンパクトパネル検査所見

●個人情報の取り扱いと倫理的事項

利用する情報から、お名前、住所など、患者さんを直接特定できる個人情報を完全に削除します。情報は研究代表者と特定の共同研究者のみが共有します。また、研究成果は学会・学術雑誌で発表されますが、その際、患者さんを直接特定できる個人情報は一切使用しません。

*上記の研究にカルテ情報を利用することをご理解頂けない場合は、以下にご連絡ください。なお、その場合においても患者さんが診療上不利益をこうむることは一切ありません。なお、試験終了後のご連絡には申し訳ありませんが対応できません。

●問い合わせ先

国立病院機構 近畿中央呼吸器センター 呼吸器外科

井口 貴文

住所：大阪府堺市北区長曾根町1180 電話：072-252-3021（代表）